

確定版

2021年度（公財）日本中学校体育連盟バレーボール競技部 における 6人制ルールの取り扱いについて

2月23日に(公財)日本バレーボール協会の審判規則委員会合同会議が開催され、『2021年度6人制ルールの取り扱い』が確認されました。これに基づき、「(公財)日本中学校体育連盟バレーボール競技部」の「今年度の6人制ルールの取り扱い」を決定しました。

1 競技参加者の行為（PARTICIPANTS' CONDUCT）に関する事項

20.1 スポーツマンにふさわしい行為（SPORTSMANLIKE CONDUCT）

20.1.1 競技参加者は、公式バレーボール規則に通じていなければならない。また、それを忠実に守らなければいけない。

20.2 フェアプレー（FAIR PLAY）

20.2.1 競技参加者は、審判員だけでなく、他の役員、相手チーム、チームメイト、さらに観衆に対しても、フェアプレーの精神で敬意を示し、礼儀正しく行動しなければならない。

（注）

- 1 主審の判定に対するゲームキャプテンの質問は受け入れるが、その内容がルールの取り扱い等に関する質問ではなく、判定に対する抗議や意見を述べる等の場合やゲームキャプテン以外の選手が質問に来た場合は、拒否する。
- 2 競技参加者が、規則 20 に反した場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が科せられる。
- 3 競技参加者が、審判員に向かって判定に対して執拗に抗議するような態度をとった場合、警告が与えられる。繰り返した場合は、反則が科せられる。

【主にステージ 1 に該当するケース】

- ①主審が最終判定を出した後にも審判員に不満を示す態度や言葉を発した場合。
- ②主審がゲームキャプテンの質問に答えた後にも、さらに論争を長引かせるようにした場合。
- ③繰り返しゲームキャプテンの質問の内容が規則の適用や解釈でない場合。
- ④一度指導されているのに、再びゲームキャプテン以外の選手が判定に対して質問をした場合。
- ⑤ネット越しに相手の選手などに対して、馬鹿にしたり威嚇をしたりする行為があった場合。

【主にステージ 2 に該当するケース（直接イエローカードを出すケース）】

- ①主副審やラインジャッジの判定に対して執拗な抗議や威嚇的な態度を示した場合。
 - ②主副審やラインジャッジの判定に対して、ベンチスタッフや控えの選手がベンチから飛び出して判定に異議を訴えた場合。
- 4 監督が副審やスコアラーに話しかけることができるのは、リベロの再指名の時や得点が正しくない時などの声かけ程度のものであり、説明を求めたり、長く話しかけるようなことはできない。

5 試合終了後、監督・主審・副審はフェアプレーの精神でお互いに「握手」を交わす。

中体連でも同様に扱う。

※ 軽度な不法な行為に対する警告は、その後の再発を防ぎ、中学生にフェアプレーの精神を身に付けさせるために、躊躇することなく、早い段階で、ステージ1またはステージ2を与え対処すべきである。

※ ただし、中学生は、上記のような対処を知らない場合があり、必要に応じて説明し、礼儀正しく行動するよう指導すること。

6 試合終了後、監督・主審・副審の握手については、これを奨励し、協力を求めている。

2 チームリーダー（TEAM LEADERS）に関する事項

5.2 監督（COACH）

5.2.1 監督は、試合を通して、コートの外からチームのプレーを指揮する。

（注）

1 監督の指示

監督が、試合中、自チームベンチ前のフリーゾーン内で、立ちながら歩きながら指示を出している場合、ラインジャッジ（特にL2・L3）の判定の妨げにならないように審判員が注意する。

ラリー終了後、審判の判定に影響を及ぼす行為に対しては、直ちに罰則を適用する。

2 監督が試合に遅れて来た場合

- ① 遅れて来た監督は、ベンチに着席することができる。
- ② ゲームキャプテンは、監督が来たことをラリー間に審判へ口頭で伝える。
- ③ 審判が、監督が来たことを確認したら、監督は権利を行使することができる。
- ④ 監督は、セット間もしくは試合終了後に記録用紙にサインする。

1については、部活動における適切な指導や競技場設定の観点から、ラリー中はベンチに座るようお願いをする。

2については、中体連が主催する大会において、元来、監督不在の状況で試合を行うことは出来ないことから、以下の取り扱いとする。

※監督が試合に遅れてくる場合、引率責任をとれる者がベンチに座り試合は行わせるが、監督としての権利は行使できない。その間、ゲームキャプテンはタイムアウトの要求ができるものとする。

※①③④は中体連でも同様に扱うこととするが、②について中体連では「ゲームキャプテン」ではなく、「引率責任をとれる者」が口頭で伝えることとする。

3 プレーの構造（STRUCTURE OF PLAY）に関する事項

7.3 スターティングラインアップ（TEAM STARTING LINE-UP）

7.3.1 いかなるときも1チーム6人でプレーしなければならない。

チームのスターティングラインアップは、コート上の選手のローテーション順を示してい

る。この順番は、そのセットを通じ維持しなければならない。

7.4 ポジション (POSITIONS)

サーバーによりボールが打たれた瞬間、両チームは（サーバーを除き）それぞれのコート内で、ローテーション順に位置していなければならない。

7.5 ポジションの反則 (POSITIONAL FAULT)

7.5.1 サーバーによりボールが打たれた瞬間に、いずれかの選手が正しいポジションにいない場合は、そのチームはポジションの反則をしたことになる。選手が不法な選手交代をしてコート上にいて、試合が再開された場合は、不法な選手交代によるポジションの反則とみなされる。（規則 7.3, 7.4, 15.9）

7.5.2 サーバーがサービスヒットの瞬間にサービスの反則をした場合には、ポジションの反則に先立つものとみなされ、サービスの反則と判定される。（規則 12.4, 12.7.1）

7.5.3 サービスヒット後にそのサービスが反則となった場合は、ポジションの反則となる。
(規則 12.7.2)

7.6 ローテーション (ROTATION)

7.6.1 ローテーション順は、チームのスターティングラインアップにより決められ、そのセットを通じ、サービス順と選手のポジションによりコントロールされる。

7.7 ローテーションの反則 (ROTATIONAL FAULT)

7.7.1 サービスが正しくローテーション順に行われなかったとき、ローテーションの反則となる。その場合は次のような順序の結果となる：

7.7.1.1 スコアラーがブザーによって試合を止めた場合、相手チームに 1 点と次のサービスが与えられる。もしも、ローテーションの反則により始まったラリーが完了した後に、そのローテーションの反則が指摘された場合は、そのラリーの結果に関係なく、相手チームに 1 点だけが与えられる。（規則 6.1.3）

7.7.1.2 反則をしたチームのローテーション順は正しく直される。（規則 7.6.1）

(注)

1 セットの開始前、ラインアップシートどおりに位置していない場合

副審は、ゲームキャプテンを呼び、チームから提出されたラインアップシートを示し、選手のポジションの確認を行う。

2 セットの開始前、ラインアップシートに記入されていない選手がコート上にいる場合

①副審は、ラインアップシートを監督に示し、記入されていない選手がコート上にいることを告げ、どちらの選手がスターティングメンバーかを尋ねる。

②監督が、ラインアップシートに記入されていない選手をコートに残すことを要望する場合は、該当するハンドシグナルを示し正規の選手交代を要求する。副審は、ハンドシグナルを示しながらホイッスルをする。スコアラーは、正規の選手交代として記録をする。この際、ラインアップシートどおりの選手をコートに戻す必要はない。（コート上の選手は手を挙げる）

③監督が提出したラインアップシートどおりの選手をスターティングメンバーとすることを要望する場合は、その場で選手を入れ替えさせる。この場合には制裁はない。

④副審は、両チームのラインアップを確認後、主審にシグナルを示し、ゲームが開始される。

- 3 不法な選手交代によるポジションの反則やローテーションの反則により始まったラリーが完了した後にその反則が発見された場合は、ラリーの結果をキャンセルし相手チームに1点と次のサービスが与えられる。また、間違いがもっと遅い時点で発見され、間違いをした時点が明らかな場合は、発見されるまでに間違いのあったチームが得たすべての得点は取り消される。
- 4 チームがポジションについて審判団より誤った情報を与えられ、そのセットが進行した後に誤りが発覚した場合、誤った情報が与えられた時点で両チームの状態を戻す。ただし、タイムアウト、テクニカルタイムアウト、罰則はそのまま有効とする。
- 5 サービスがヒットされた瞬間に、コート上の選手の足が相手コートに触れていた時は、ラリー中に選手が相手コートへ侵入する場合と同様に考える。(規則 11.2.2.1)

中体連でも同様に扱う。

4 ボールをプレーすること (PLAYING THE BALL) に関する事項

9.1 チームのヒット (TEAM HITS)

ヒットとは、インプレー中の選手によるボールへの接触である。

(注)

- 1 インプレー中の選手の長い髪の毛がボールに触れても、ヒット(ボールへの接触)と判断しない。したがって、相手のアタックヒットがブロックやレシーブ時に髪の毛に触れてもボールコンタクトと判定しない。また、ラリー中に起こる同様のケースも許容回数に含めない。

中体連でも同様に扱う。

5 ネットの下からの相手コートへの侵入 (PENETRATION UNDER THE NET)

11.2.1 相手チームのプレーを妨害しない限り、ネットの下で相手空間に侵入してもよい。

(注)

- 1 選手が、レシーブのためにネット付近でスライディング等のプレーをした時に、誤って相手コートに入ってしまった場合、両足が完全に相手コート上の空間にあったとしても、足が相手コートに触れておらず、相手のプレーを妨害していなければ、反則とはみなさない。
- 2 選手が相手コートに侵入してコートが濡れて、危険な状況であると主審・副審が判断した場合は、直ちにラリーを止め、ノー・カウントとする。
- 3 選手が相手コートへ侵入し、プレーの妨害になったと主審・副審が判断した場合は、インターフェアの反則となる。

中体連でも同様に扱う。

6 サービス (SERVICE) に関する事項

12.3 サービスの許可 (AUTHORIZATION OF THE SERVICE)

主審は、両チームがプレーする準備ができ、サーバーがボールを持っていることを確認した後に、サービスを許可する。

(注)

- 1 ラリー終了のホイッスルから次のサービス許可のホイッスルまでの時間を、およそ8秒のテンポで行う。
- 2 ラリー終了のホイッスルの後、選手交代やワイピングがない場合、およそ8秒が経過すればサーバーがサービスゾーンでボールを保持していることを確認し、サービス許可のホイッスルをする。
- 3 コート上に5人だけ、または7人の選手がいるときには、サービスのホイッスルの前にコート上の選手が6人になるように促す。もし、主審がそのことに気づかずにサービスのホイッスルをした場合、およびラリーが始まったり完了した場合、主審はそのことに気づいたら直ちに罰則無しにラリーをやり直さなければならない。

中体連でも同様に扱う。

なお、ラリー間のインターバルをおよそ8秒のリズムにするため、以下の点をチームに指導していく。

- ① ボールを拾いに行く場合は、速やかに1人で行く。
- ② ボールを相手コートに送る場合は、安全に注意をし、素早く転がす。
- ③ 次のサーバーは、速やかにサービスゾーンに移動し、ボールを待つ。

7 中断 (INTERRUPTIONS) に関する事項

15.4 タイムアウトとテクニカルタイムアウト

(TIME-OUTS AND TECHNICAL TIME-OUTS)

15.4.1 タイムアウトは、ボールがアウトオブプレーでサービスのホイッスルの前に、該当するハンドシグナルを示して要求しなければならない。

中体連でも同様に扱う。

15.11 不当な要求 (IMPROPER REQUESTS)

15.11.1 以下のような正規の試合中断の要求は、不当な要求である。

15.11.1.1 ラリー中、またはサービスのホイッスルと同時に、あるいはその後に要求すること。(規則 12.3)

15.11.1.2 要求する権利のないチームメンバーが要求すること。(規則 5.1.2.3, 5.2.33)

15.11.1.3 インプレー中の選手の負傷や病気の場合を除いて、同じチームが同じ中断中(次のラリーが完了する前)に2回目の選手交代を要求すること。(規則 15.2.2, 15.2.3)

15.11.1.4 タイムアウトと選手交代の許容回数を超えて要求すること。(規則 15.1)

15.11.2 試合での1回目の不当な要求は、試合に影響を与えず、試合の遅延にならなければ拒否される。罰則の適用を受けることはないが、記録用紙には記録される。(規則 16.1)

15.11.3 同じチームが試合中に、さらに不当な要求をした場合は遅延行為とみなされる。

(規則 16.1.4)

(注)

- 1 正規の試合中断の要求に関して、チームが不当な要求で拒否された後、その中断中に同じチームによる同じ試合中断の要求は認められないが、違う種類の中断の要求は認められる。ただし、15.11.1.1 の不当な要求については、サービスの実行が優先され、試合中断の要求はすべて認められない。
- 2 正規の試合中断の要求に関して、チームが遅延警告を受けた場合、同じチームによる試合中断の要求は、次のラリーが完了するまで認められない。(けがや病気による選手交代を除いて)
- 3 5回の選手交代を終えた後に、2人の交代選手が選手交代ゾーンに入ってきた場合、副審は、監督に1組の選手交代だけが可能であることを伝え、どちらの選手交代を行うかを尋ねなければならない。そこに遅延がなければ、他の選手交代は不当な要求として拒否され、記録用紙に記録される。
- 4 2組の選手交代の要求があり、その中の1組は不法な選手交代であった。副審は1組の選手交代を認め、不法な選手交代は拒否し、チームに遅延の罰則を与える。
- 5 サービスのホイッスルと同時か、あるいはその後の中断の要求は拒否され、ラリー終了後、記録用紙に不当な要求として記載する。もしも副審がホイッスルした場合でも、特に試合を遅らせずに再開できる時には遅延とはせずにサービスのホイッスルを吹き直し、そのラリー終了後に不当な要求の処置を行う。
- 6 タイムアウト及びテクニカルタイムアウト中、選手やチームスタッフは自チームベンチ付近のフリーゾーンに位置する。

中体連でも同様に扱う。

8 リベロ (THE LIBERO PLAYER) に関する事項

19.3 リベロに関する動作 (ACTION INVOLVING THE LIBERO)

19.3.2.9 不法なリベロリプレイメントが次のラリーの開始前に発見された場合は、審判員より正しく直され、チームには遅延行為に対する罰則が適用される。

不法なリベロリプレイメントがサービスヒットの後に発見された場合は、不法な選手交代と同じ処置がされる。

(注)

- 1 アシスタントスコアラーは、サービス許可のホイッスル後からサービスのヒットの前にブザーを鳴らし指摘し、チームには遅延の罰則が適用される。この時のリベロリプレイメントは認められない。ただし、リベロがポジション4に残らなければいけない場合は、リベロリプレイメントは認められる。

中体連では、昨年度までと同様の取扱いをする。

(1)不法なリベロリプレイメントをさせないことを原則とし審判に当たる。

(2)サービスのヒット前であれば指摘し、罰則を与えることなくチームに訂正させる。ただし繰り返した場合は、チームに遅延の罰則が適用される。

(3)サービスのヒット後に気づいた場合は、ポジションの反則となる。

9 副審 (2nd REFEREE) に関する事項

24.3 責務 (RESPONSIBILITIES)

24.3.1 それぞれのセット開始時や最終セットのコートチェンジ時に、必要に応じてコート上の選手の位置がラインアップシートどおりであるかチェックする。

(注)

- 1 最終セットのコートチェンジ後のポジションの確認について、副審は、両チームの全ての選手のポジションを確認する。もしポジションが間違っていた場合は、ゲームキャプテンに確認をする。その後リベロリプレイメントや中断の要求を認める。

中体連でも同様に扱う。なお、セット開始前のようにコート内に並ばせたり、背番号を見せる指導は行わず、速やかにゲームが再開できるよう手続きを行う。